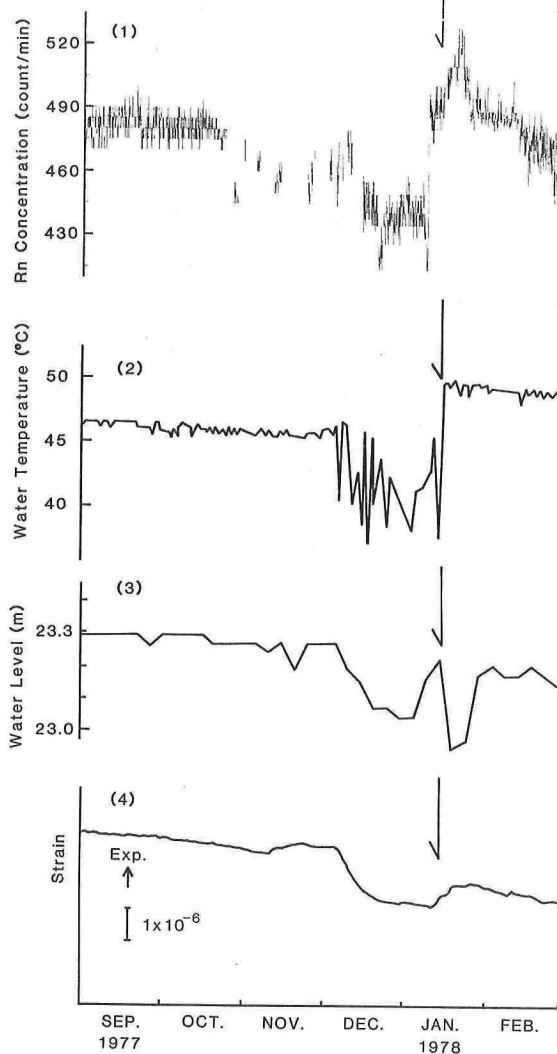


# 廣報

## 東京大学理学部

Izu-Oshima-kinkai earthquake  
14 January 1978 (M7.0)



表紙の説明	協田 宏	1
新任の挨拶・理学部広報によせて	江上信雄	2
国際協力研究	永宮正治	3
〈学部消息〉		4

## 表 紙 の 説 明

地殻化学実験施設では、地震予知に関連する研究・観測を行っている。東海地方、伊豆半島、鎌倉、福島県東部に計10ヶ所の固定観測点を設け、テレメータシステムによる観測データの収録を行っている。

表紙の図は、伊豆大島近海地震（1978年1月14日、M 7.0）前に観測された各種の異常変化である。一番上の図は、本実験施設の中伊豆観測所で連続観測を行っている地下水中のラドン濃度の変化である。ラドン濃度は、10月中旬から大きく減少し始め、次第に激しく変動した。12月下旬からは、ラドン濃度は低いまま、ほぼ一定であったが、地震の6日前の1月8日に急低下した。翌9日に最低値を記録した後、以前の高い濃度に回復した。地震はその数日後に発生した。

このラドン濃度の異常変化は、別の場所で異なった種類の観測によって検知された異常と、発生時期、パターンが類似していることが注目される。

(2)、(3)は、震央から約30kmはなれたところにある深さ500mの2つの井戸の水位および水温の変化である（地質調査所の観測による）。(4)は、震源から約50kmの石廊崎における埋込式体積歪計（気象庁）の変化である。

このようにはっきりとした異常が、どの地震に対しても現われるものではない、あるいは、観測できないところに地震予知のむつかしさがある。

地殻化学実験施設

脇 田 宏

## 新任の挨拶

江上信雄

このたび、はからずも理学部長に併任されました。  
マイナスシーリングが叫ばれている時世でありますので  
いろいろ困難が予想されます。  
理学部の皆様どうかよろしく願い申し上げます。

## 理学部広報によせて

江上信雄

昭和57年3月の末頃、化学教室の露木さんから  
お電話で、「今回広報の編集委員長をお引き受け  
することになったが広報についての御意見を伺い  
たい」という主旨の御依頼があった。ふだん広報  
についてあまり関心を持たなかった私は、正直に  
言って戸惑った。「広報を継続するかどうかを含  
めてのお返事を」との事である。確かにこのよう  
なパンフレット類があちこちにあふれているし、  
それらに予算と労力を使うことの無駄を私自身考  
えたこともある。また同僚から広報無用論を聞か  
されたこともある。しかし、勿論有用性も頭に浮  
んだ。そこで咄嗟に「今ここでの廃止は適当と思  
わないが、なるべく有意義に編集して下さい。」旨、  
お答えした。直ちに「それではなにが有意義な学  
部長新任挨拶を1ページ分書いて下さい。」という  
ことになり、無理な注文をしてしまった手前、筆  
をとらなければならなくなった次第である。

広報にはいくつかの面が期待される。第一は学  
部内の出来事やその対応の速報である。隔月発行  
の現状ではこの機能は望めそうもない。但し、緊  
急な場合に号外発行の余地はあろう。第二は記録

としての意味である。卒業生の氏名、学位論文の  
表題、理学部の人事異動、メンバーの研究課題等  
等の通知、連絡記録であり、この場合は記事の正  
確性と長期にわたって同じスタイルで継続するこ  
とが必要であろう。第三はメンバーの間の研究情  
報交換の場としての意味である。現在の研究内容  
は極めて広汎で、しかも研究室が遠く離れていて相  
互理解が困難な点をカバーし、少しでも各人の研  
究に役に立ち、ヒントが得られる記事が期待され  
る。そこまで広報に頼るのは無理かもしれないが  
やはりもっとも重要な点であろう。第四に従来の  
バックナンバーをパラパラみると、ときとしてと  
ても含蓄のあるロマンにみちたエッセイやイラス  
トや写真が見受けられる。心の休まる爽やかなバ  
ラエティに富んだ見もの、読みものを最後に期待  
したい。理学部にはこの点でも有能な方々が少く  
ないようであるから。

## 国際協力研究

永宮正治(物理)

理学部に赴任してから早や2ヶ月近く経ちました。赴任直前は猛烈な忙しさに見舞われ、東大に行ったらしばらくはゆっくりと過ごせるだろうと、あれこれプランを練ったりして楽しみにしておりました。豈に凶らんや、日本という国は何となく忙しい国で、あたふたとしているうちに2ヶ月が経ってしまいました。

私は、これまでカリフォルニア州のバークレイに住んでいました。まっ青に澄み渡った空。一年中春のような気候。そして夜になると、研究所から眼前に広がるサンフランシスコとオークランドのまばゆいばかりの夜景。当初は2年ぐらいのつもりで留学しましたか、すっかりこのバークレイの地が気に入ってしまい、約9年近くも滞在してしまいました。

外国留学というと、ひと昔前までは、何だか遠い国に1人ポツンと出掛けるイメージがありました。私の場合は、これに反して、日本人と一緒に研究を進める期間が長く続きました。というのは、日米協力研究にずっと携わってきたからです。バークレイにある、ベバラックという、おんぼろではあっても世界的にみるとたいそうユニークな加速器を用いた原子核物理の実験です。最初は日本側から参加していましたが、後半の4～5年は米国側から参加するという、立場上はやや微妙な変化を経て、協力研究を続けてきました。こんにち、いろんな分野で、流行ともいえるほど国際協力が進んでいますが、私のような類の留学スタイルも、これからはだんだんふえていくでしょう。

さて、9年近くも国際協力研究に携わっていると、やはりいろいろ難問も出てくるものです。物事が拡大発展していくのは、ある意味では自然の理で、それを「進展」という言葉でとらえること

もできますが、「拡大」するにつれ、当初それほど問題にならなかった諸点が、かえって浮き彫りにされて出てくるという宿命もあります。私たちの日米協力研究も、約3年前の大型化にともない、いくつかの問題をかかえこむことになりました。

たちまち困ったのは、日本人研究者の旅費・滞在費でした。日本の国際協力研究の場合、たいていは、実験費と旅費が異なった範疇の予算枠から支給されます。これだけの実験をするから、これだけの人員が必要で、従ってそれ相応の旅費が出るというケースはごく稀で、ふつうは、実験費と旅費は、それぞれ別々の枠内独自の制約を受けて、その支給額が決まります。私たちの場合、実験費は年間数千万円と、すくなくも私たちの実験規模からみるとかなり満足のいく支給が得られました。そのため、日本から4～5人の派遣を考えようということになりました。ところが、旅費・滞在費としては年間百万円しか得られず、実験をしようにも人を派遣できないという窮地に追いこまれました。結局、アメリカ側に滞在費をほぼ全額負担させるというみっともない状態になり、その交渉や、一人あたり何ドルぐらい支給すべきかという細かいことまで、私が担当する羽目になりました。急に大量の日本人をかかえたため、一人あたりの支給を制限せざるを得ませんでした。日本の給料を丸々ふところに入れて大量の支給を受けている「文部省長期派遣者」とは格段に差がつき、苦慮しました。もちろん、いうまでもなく、日本での給料は全てアメリカでの生活費につきこむ方式をとりました。この旅費不足は、その後やや緩和されたものの、今でも続いています。余談になりますが、日本の給料がよくなったこんにち、日本の給料に目をつぶって、外国から全額負担を受け

て留学するというスタイルは、たとえ一人の留学でも、今後は改めるべきだと思います。ヨーロッパ人は、少数の例外を除いて、自分の給料を全てオープンにして米国にやってくるのですから。

日本人が急増するにしたがい、次にクローズアップされた問題は、私自身も含めた日本人の閉鎖的風習です。まず日本人の大半は英語を繰るのが下手で、日本人が5人、6人と増えるにつれ、日本人だけの集団を作ってしまう。最近では、参加者の中に英語をほとんど話さない人も増えてきました。そもそも、日本人と西洋人は、日常生活の根本的発想もかなり違っており、英語を話せるというだけでは、協力研究の充分条件にはなりません。お互いの認識感覚の違いを十分に知り合う必要があります。協力研究が大型化すればするほど、何だかこれとは逆の方向の非協力研究になっていきそうで、内心ヒヤヒヤ不安を隠せません。

バークレイの同じ研究所で、独米協力研究も進んでいますが、ドイツ人10人アメリカ人数人というグループでは、ドイツ人とアメリカ人の生活習慣が似通っていること、ドイツ人同志でも英語で気軽に話せることなどから、グループの内でのコミュニケーションは、私たちの場合よりずっとスムーズに思えます。

私たちの協力研究では、日本人が主たるリーダーシップをとってプロジェクトを進めており、研究所内での受けも良く、全体的にみればうまくいっている方だと思います。しかし、今後も発展させるためには、このような諸点を解決していかなければならないと感じています。

新任の理学部で、新しい生活に夢を托しつつ、半分はバークレイでの進展状況を心配しつつあるというきょうこの頃です。よろしく御指導下さい。

## 《 学部消息 》

### 教 授 会 メ モ

#### 3月17日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- (1) 前回議事録承認
- (2) 人事異動等報告
- (3) 昭和56年度卒業業者決定の件
- (4) 研究生の入学について
- (5) 研究生の研究期間延長について
- (6) 昭和57年度日本学術振興会奨励研究員の受入れについて
- (7) 昭和57年度受託研究員の受入れについて
- (8) 人事委員会報告
- (9) 会計委員会報告
- (10) 教務委員会報告
- (11) 臨海実験所長の選出について
- (12) その他

なお、当日、植村教授、木村(敏)教授、野田教授並びに吉川教授の4教授のご退官にあたり、記念写真撮影(化学教室中庭)及び送別会(午後5時30分より、学生会分館・赤門脇)が教授会終了後に開催された。

#### 4月14日(水) 定例教授会

理学部4号館1320号室

- (1) 前回議事録承認
- (2) 人事異動等報告
- (3) 研究生の入学について
- (4) 研究生の研究期間延長について
- (5) 昭和57年度奨励研究員の受入れについて
- (6) 寄附の受入れについて
- (7) 人事委員会報告
- (8) 会計委員会報告
- (9) 教務委員会報告
- (10) その他

次回以降予定：5月19日(水) 13時30分より

6月16日(水) 同 上

7月14日(水) 同 上

8月 休 会

## 教室主任・施設長等名簿

(昭 57. 5. 1 現在)

教室・施設名	主任・長の氏名	内線番号	備 考
数 学	伊 藤 清 三	4 0 4 2	
情 報 科 学	米 田 信 夫	4 1 1 5	
物 理 学	鈴 木 秀 次	4 1 7 1	
天 文 学	堀 源 一 郎	4 2 5 7	3 号館運営委員長
地 球 物 理 学	佐 藤 良 輔	4 2 9 3	
化 学	佐 佐 木 行 美	4 3 5 9	
生 物 化 学	宮 沢 辰 雄	4 3 9 1	
動 物 学	水 野 丈 夫	4 4 3 1	
植 物 学	田 沢 仁	4 4 5 7	2 号館長(～57. 7. 31)
人 類 学	埴 原 和 郎	4 4 8 5	2 号館自衛消防副隊長
地 質 学	花 井 哲 郎	4 5 1 8	
鉱 物 学	床 次 正 安	4 5 4 1	5 号館運営委員長
地 理 学	阪 口 豊	4 5 7 1	
臨 海 実 験 所	木 下 清 一 郎		(臨) 0468-81-4105～7
植 物 園	飯野徹雄(植)	4 4 6 5	(園) 814-0138～9
地 球 物 理 研 究 施 設	福 島 直	4 5 8 1	
分 光 化 学 セ ン タ ー	黒田晴雄(化)	4 3 3 1	
中 間 子 科 学 実 験 施 設	山崎敏光(物)	4 2 3 3	
地 殻 化 学 実 験 施 設	佐藤良輔(球)	4 2 9 3	
素粒子物理学国際協力施設	小柴昌俊(物)	4 2 3 1	
事 務 長	田 村 文 雄	4 0 0 1	
事 務 長 補 佐(総務担当)	神 戸 和 雄	4 0 0 2	
事 務 長 補 佐(経理担当)	福 井 保 男	4 0 0 4	
学 務 主 任	三 浦 俊 暁	4 0 0 3	

### 計 報

本学部元教授 立石 巖殿(地質学教室)には、去る5月2日急性肺炎のため郡山市の寿泉堂病院において、ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。享年87才。

## 人 事 異 動 報 告

所属	官職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
素粒子	助手	川 本 辰 男	57. 3. 16	採 用	
物 理	助教授	永 宮 正 治	57. 3. 1	採 用	
"	助 手	水 島 公 一	57. 3. 31	辞 職	
数 学	"	片 岡 清 臣	"	"	
"	"	大阿久 俊 則	57. 4. 1	採 用	
"	"	村 瀬 篤	"	"	
"	"	斎 藤 秀 司	"	"	
物 理	"	野 崎 光 昭	"	"	
"	"	三 明 康 郎	"	"	
化 学	"	小 杉 信 博	"	"	
"	"	江 川 千佳司	"	"	
動 物	"	石 井 直 方	"	"	
地 質	"	阿 部 勝 巳	"	"	
素粒子	"	竹 下 徹	"	"	
地 質	"	小 澤 智 生	"	昇 任	兵庫教育大・助教授・学校教育学部へ
数 学	"	俣 野 博	"	"	広島大学・講師・理学部へ
中間子	"	中 山 久 義	"	"	高エネルギー物理学研究所・助教授へ
動 物	"	馬 場 昭 次	"	"	お茶の水女子大学・助教授・理学部へ
物 理	"	渡 邊 靖 志	"	"	高エネルギー物理学研究所・助教授へ
中間子	"	山 本 明	"	併 任	本務：高エネルギー物理研究所・助手
"	"	今 里 純	"	配置換	物理学科より
物 理	助教授	橋 本 淑 夫	57. 3. 21	昇 任	理学部・講師より
植物園	講 師	加 藤 雅 啓	57. 4. 1	"	京大・助手・理学部より
人 類	"	平 井 百 樹	"	転 任	放射線医学総合研究所・技官より
地 質	助教授	中 村 保 夫	"	配置換	東大・助教授・教養学部へ
化 学	講 師	内 藤 周 弑	"	昇 任	化学科・助手より
物 理	教 授	植 村 泰 忠	57. 4. 2	停年退官	

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地質	教授	木村敏雄	57. 4. 2	停年退官	
生化	"	野田春彦	"	"	
地理	"	吉川虎雄	"	"	
動物	"	江上信雄	57. 4. 1	併任	理学部長 (併任の期間 59. 3. 31)
"	"	"	"	"	評議員 (併任の期間 59. 3. 31)
天文	"	海野和三郎	"	"	評議員 (併任の期間 59. 3. 31)
動物	"	寺山宏	"	併任解除	臨海実験所長
"	"	木下清一郎	"	併任	臨海実験所長 (併任の期間 58. 4. 1)
物理	"	小柴昌俊	"	"	素粒子物理学国際協力施設長 (併任の期間 59. 3. 31)
"	"	山崎敏光	"	"	中間子科学実験施設長 (併任の期間 59. 3. 31)
地物	"	佐藤良輔	"	"	地殻化学実験施設長 (併任の期間 59. 3. 31)
物理	"	江橋節郎	"	"	本務：医学部・教授
地物	"	上田誠也	"	"	本務：地震研究所・教授
素粒子	助教授	藤川和男	"	"	本務：原子核研究所・助教授
地物	"	中澤清	"	"	本務：京都大学・助教授
植物園	教授	岩槻邦男	"	"	本務：京都大学・教授
素粒子	"	武田暁	"	"	本務：東北大学・教授
"	"	菅原寛孝	"	"	本務：高エネルギー物理学研 究所・教授
"	助教授	高橋史彦	"	"	本務：高エネルギー物理学研 究所・助教授
中間子	"	南園忠則	"	"	本務：大阪大学・助教授
"	"	谷川庄一郎	"	"	本務：筑波大学・助教授
化学	教授	倉谷健治	"	"	本務：宇宙科学研究所・教授
地物	"	伊藤富造	"	"	同 上
"	"	大林辰蔵	"	"	同 上
物理	"	小田稔	"	"	同 上
"	"	田中靖郎	"	"	同 上
"	"	高柳和夫	"	"	同 上
"	"	西村純	"	"	同 上



所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
地物	教授	西田篤弘	57. 4. 1	併任	本務：宇宙科学研究所・教授
物理	“	清水幹夫	“	“	同上
“	助教授	河島信樹	“	“	本務：宇宙科学研究所・助教授
地物	“	中村良治	“	“	同上
物理	“	小川原嘉明	“	“	同上
“	“	松岡勝	“	“	同上
“	“	橋本淑夫	57. 4. 15	辞職	(防衛医科大学へ)
地殻	助手	佐野有司	57. 5. 1	採用	
物理	助教授	三須明	“	昇任	物理学科・講師より
中間	技官	佐々木英行	57. 2. 28	辞職	
情報	“	塚本太郎	57. 3. 31	“	
事務	事務官	斉田慶子	57. 4. 1	転任	東京工業大学総合理工学研究科へ
“	大学院掛主任	安岡邦信	“	配置換	庶務部入学主幹付・入学試験第一掛主任へ
化学	用務員	違セイ	“	辞職	
物理	事務官	上原功	“	採用	
化学	“	山谷弘美	“	“	
事務	“	阿部久	“	配置換	庶務部学務課より
情報	技官	入吉修	“	採用	
事務	事務官	三科旭	57. 5. 1	“	
数学	“	安室早苗	“	配置換	庶務部庶務課へ

あなたです！

火事を出すのも

防ぐのも

## 外国人客員研究員報告

所属	受入れ 教 官	国籍	氏 名	現 職	研究期間	備 考
情報	後藤教授	アメリカ	Charlotte, R. Lin	シュランバージェ会社 研究員	57. 4. 1 } 58. 3. 31	
化学	朽津教授	ドイツ連 邦共和国	Lothar Schafer	アーカンソー大学 教授	57. 4. 1 } 57. 5. 31	

## 東京大学職員の永年勤続表彰

化 学 科                      達                      セ イ 殿

57. 4. 1 停年による退職に際し表彰され、記念品が贈られた。

## 海 外 渡 航 者

3                      月

所属	官職	氏 名	渡航先国	渡航期間	渡 航 目 的
数 学	助 手	橋 本 喜一朗	ドイツ連邦共和 国	3. 23~ 58. 3. 25	整数論の研究のため
物 理	助教授	一 丸 節 夫	アメリカ合衆国	3. 1~5. 31	天体物理におけるプラズマ現象の 理論的研究のため
素粒子	助教授	戸 塚 洋 二	ドイツ連邦共和 国	3. 1~3. 14	PETRAにおける $e^+e^-$ 実験遂 行のため
物 理	助 手	今 里                      純	スイス、ドイツ 連邦共和国	3. 2~3. 24	ミュオン実験及び原子核物理学に 関する研究打合せのため
鉍 物	助教授	武 田                      弘	アメリカ合衆国	3. 13~3. 31	国際隕石学会評議員会、第13回月 ・惑星科学会議出席及び南極隕石、 月試料中の鉍物に関する研究連絡 のため
物 理	教 授	上 村                      洸	アメリカ合衆国	3. 6~3. 21	アメリカ物理学会出席及び固体物 理学に関する研究打合せのため
地 質	教 授	飯 山 敏 道	フ ラ ン ス	3. 6~3. 28	深海潜水船による海底観測法に関 する研究調査のため
物 理	教 授	小 柴 昌 俊	ドイツ連邦共和 国	3. 17~4. 1	国際協同実験—電子・陽電子衝突 実験実施のため
数 学	助教授	落 合 卓四郎	フランス、連合 王国	3. 23~7. 19	大域リーマン幾何の国際シンポジ ウム出席及び複素微分幾何学に関 する研究連絡のため
中間子	助教授	永 嶺 謙 忠	アメリカ合衆国 カナダ	3. 3~3. 18	ミュオンスピン回転による物性の 研究のため

所属	官職	氏名	渡航先国	渡航期間	渡航目的
物理	教授	宮本健郎	オーストリア	3. 20~4. 4	国際原子力機関 I N T O R ワークショップフェーズ II A 出席のため
化学	助手	梅澤喜夫	ハンガリー	3. 10~4. 9	イオン選択性電極のメモリー効果に関する基礎的研究のため
地理	助教授	小堀巖	インド	3. 13~3. 25	国際半乾燥熱帯作物研究所理事会出席のため
物理	教授	山崎敏光	カナダ、アメリカ合衆国	3. 18~3. 25	T R I U M F における長期計画委員会出席及び原子核物理学に関する研究連絡のため
地物研	助教授	小川利紘	インド	3. 14~3. 28	インドにおける中層大気ロケット観測調査のため
化学	教授	大木道則	アメリカ合衆国	3. 22~3. 26	1984太平洋沿岸化学会合同国際化学会議実行委員会出席のため
化学	助手	巻出義紘	アメリカ合衆国	3. 27~4. 11	「レーザー同位体分離シンポジウム」出席及び放射化学に関する研究調査のため
物理	教授	有馬朗人	アメリカ合衆国、イタリア	3. 24~4. 11	原子核のスピン励起に関する国際会議出席及び原子核物理学に関する調査研究のため

#### 4 月

物理	助教授	鈴木増雄	中華人民共和国	4. 10~4. 25	非平衡統計力学の研究のため
天文	助手	中田好一	アメリカ合衆国	4. 12~ 58. 3. 31	天体物理学に関する研究のため
物理	助教授	折戸周治	ドイツ連邦共和国	4. 7~4. 21	国際協同実験—電子・陽電子衝突実験のため
化学	教授	向山光昭	ス イ ス	4. 23~5. 13	ビュルゲンストックコンファレンス出席及び有機合成化学に関する研究調査のため
人類	教授	埴原和郎	アメリカ合衆国	4. 18~4. 25	ハワイ学術集会企画委員会出席及び形態人類学に関する調査研究のため
天文	教授	海野和三郎	中華人民共和国	4. 17~5. 16	恒星の太陽物理学の研究のため
天文	助教授	尾崎洋二	中華人民共和国	4. 20~5. 11	恒星の太陽物理学の研究のため
天文	助手	吉村宏和	中華人民共和国	4. 20~5. 11	恒星の太陽物理学の研究のため
物理	助教授	永宮正治	アメリカ合衆国	4. 14~4. 20	D O E レビューコミッティ出席及び高エネルギー原子核反応に関する研究連絡のため
物理	助教授	釜江常好	アメリカ合衆国	4. 22~5. 2	日米科学協力事業「電子・陽電子衝突型加速器による新粒子検出実験」のため
人類	教授	尾本恵市	フィリピン	4. 27~5. 7	人類学上の研究連絡のため
地質	教授	飯山敏道	フランス	4. 24~5. 2	オルレアン大学名誉博士号授与式出席及び鉱床学に関する研究連絡のため

# 昭和57年3月27日卒業者氏名

## 数 学 科

浅井恒信	市川 <sup>たか</sup> 尚 <sup>し</sup>	北 <sup>まさ</sup> 詰 <sup>あき</sup>	正 <sup>まさ</sup> 友 <sup>あき</sup>	顯 <sup>あき</sup> 秀	今 <sup>こん</sup> 野 <sup>の</sup>	紀 <sup>の</sup> 康 <sup>の</sup>	雄 <sup>の</sup> 彦 <sup>の</sup>
清水村	柳 <sup>やなぎ</sup> 田 <sup>た</sup>	寺 <sup>てら</sup> 溝 <sup>ぞう</sup>	友 <sup>とも</sup> 江 <sup>え</sup>	秀 <sup>ひで</sup> 昭 <sup>しやう</sup>	中 <sup>なか</sup> 瀬 <sup>の</sup>	康 <sup>の</sup> 松 <sup>の</sup>	彦 <sup>の</sup> 樹 <sup>の</sup>
中斎	松 <sup>まつ</sup> 庭 <sup>てい</sup>	相 <sup>さう</sup> 宇 <sup>う</sup>	曾 <sup>そう</sup> 澤 <sup>ざい</sup>	秀 <sup>ひで</sup> 達 <sup>とつ</sup>	吉 <sup>きち</sup> 有 <sup>ゆう</sup>	木 <sup>き</sup> 江 <sup>え</sup>	進 <sup>しん</sup> 武 <sup>ぶ</sup>
安斎	井 <sup>い</sup> 斎 <sup>さい</sup>	柴 <sup>しば</sup> 鈴 <sup>りゆう</sup>	山 <sup>さん</sup> 木 <sup>き</sup>	達 <sup>とつ</sup> 将 <sup>しやう</sup>	大 <sup>だい</sup> 申 <sup>しん</sup>	吉 <sup>きち</sup> 中 <sup>なか</sup>	浩 <sup>こう</sup> 博 <sup>はく</sup>
杉高橋	鈴 <sup>りゆう</sup> 武 <sup>ぶ</sup>	中 <sup>なか</sup> 東 <sup>とう</sup>	村 <sup>むら</sup> 口 <sup>くち</sup>	敦 <sup>とん</sup> 敦 <sup>とん</sup>	田 <sup>でん</sup> 橋 <sup>きやう</sup>	本 <sup>ほん</sup> 井 <sup>い</sup>	郎 <sup>らう</sup> 彦 <sup>げん</sup>
松	日 <sup>ひ</sup> 山 <sup>さん</sup>	山 <sup>さん</sup> 本 <sup>ほん</sup>	本 <sup>ほん</sup> 敦 <sup>とん</sup>	之 <sup>し</sup>	藤 <sup>ふじ</sup> 渡 <sup>わたり</sup>	邊 <sup>へん</sup> 啓 <sup>けい</sup>	史 <sup>し</sup> 史 <sup>し</sup>

(40名)

## 情報科学科

大曾根	太 <sup>たい</sup> 田 <sup>た</sup>	昌 <sup>しょう</sup> 智 <sup>ち</sup>	孝 <sup>こう</sup> 嗣 <sup>し</sup>	佐 <sup>さ</sup> 藤 <sup>ふじ</sup>	盛 <sup>せい</sup> 三 <sup>さん</sup>	佐 <sup>さ</sup> 藤 <sup>ふじ</sup>	三 <sup>さん</sup> 久 <sup>きう</sup>
篠原	関 <sup>せき</sup> 口 <sup>くち</sup>	口 <sup>くち</sup> 秀 <sup>しゅう</sup>	子 <sup>し</sup> 司 <sup>し</sup>	高 <sup>たか</sup> 村 <sup>むら</sup>	高 <sup>たか</sup> 村 <sup>むら</sup>	西 <sup>せい</sup> 門 <sup>もん</sup>	隆 <sup>りゅう</sup> 久 <sup>きう</sup>
早山	樋 <sup>ひ</sup> 井 <sup>い</sup>	井 <sup>い</sup> 伸 <sup>しん</sup>	司 <sup>し</sup>	廣 <sup>ひろ</sup> 瀬 <sup>せ</sup>	廣 <sup>ひろ</sup> 瀬 <sup>せ</sup>	本 <sup>ほん</sup> 廣 <sup>ひろ</sup>	優 <sup>ゆう</sup> 久 <sup>きう</sup>
山	横 <sup>よこ</sup>	伸 <sup>しん</sup>	司 <sup>し</sup>	紳 <sup>しん</sup>	紳 <sup>しん</sup>	俊 <sup>しゅん</sup>	彦 <sup>げん</sup>

(14名)

## 物 理 学 科

北市門	小 <sup>せう</sup> 岩 <sup>がん</sup>	林 <sup>はやし</sup> 井 <sup>い</sup>	裕 <sup>ゆう</sup> 順 <sup>じゆん</sup>	鈴 <sup>すず</sup> 木 <sup>き</sup>	伸 <sup>のぶ</sup> 太 <sup>た</sup>	堀 <sup>ほり</sup> 大 <sup>だい</sup>	江 <sup>え</sup> 竹 <sup>たけ</sup>	克 <sup>かつ</sup> 己 <sup>き</sup>
多森伊岩	岩 <sup>いわ</sup> 城 <sup>じやう</sup>	所 <sup>ところ</sup> 村 <sup>むら</sup>	俊 <sup>しゆん</sup> 典 <sup>てん</sup>	太 <sup>た</sup> 柴 <sup>しば</sup>	仁 <sup>に</sup> 二 <sup>に</sup>	鈴 <sup>すず</sup> 松 <sup>しょう</sup>	木 <sup>き</sup> 尾 <sup>び</sup>	紀 <sup>き</sup> 利 <sup>り</sup>
伊岩大	青 <sup>あお</sup> 池 <sup>いけ</sup>	木 <sup>き</sup> 上 <sup>かみ</sup>	慎 <sup>しん</sup> 也 <sup>や</sup>	福 <sup>ふく</sup> 秋 <sup>あき</sup>	一 <sup>いち</sup> 之 <sup>の</sup>	朝 <sup>あさ</sup> 岩 <sup>いわ</sup>	倉 <sup>くら</sup> 崎 <sup>さき</sup>	由 <sup>ゆ</sup> 伸 <sup>しん</sup>
大門	煤 <sup>すす</sup> 田 <sup>でん</sup>	田 <sup>でん</sup> 淵 <sup>えん</sup>	洋 <sup>やう</sup> 太 <sup>た</sup>	磯 <sup>いそ</sup> 小 <sup>せう</sup>	康 <sup>かう</sup> 全 <sup>ぜん</sup>	岩 <sup>いわ</sup> 小 <sup>せう</sup>	木 <sup>き</sup> 山 <sup>さん</sup>	敏 <sup>みん</sup> 龍 <sup>りゆう</sup>
高徳	大 <sup>だい</sup> 儀 <sup>ぎ</sup>	間 <sup>ま</sup> 田 <sup>でん</sup>	敏 <sup>みん</sup> 哲 <sup>てつ</sup>	柿 <sup>かき</sup> 田 <sup>でん</sup>	正 <sup>せい</sup> 裕 <sup>ゆう</sup>	片 <sup>かた</sup> 坂 <sup>さか</sup>	本 <sup>ほん</sup> 橋 <sup>はし</sup>	敏 <sup>みん</sup> 忠 <sup>しゆん</sup>
長原	竹 <sup>たけ</sup> 德 <sup>とく</sup>	内 <sup>うち</sup> 永 <sup>えい</sup>	哲 <sup>てつ</sup> 也 <sup>や</sup>	田 <sup>でん</sup> 津 <sup>つ</sup>	均 <sup>きん</sup> 均 <sup>きん</sup>	高 <sup>たか</sup> 鶴 <sup>つる</sup>	岡 <sup>おか</sup> 藤 <sup>ふじ</sup>	智 <sup>ち</sup> 典 <sup>てん</sup>
三	中 <sup>なか</sup> 平 <sup>へい</sup>	尾 <sup>び</sup> 田 <sup>でん</sup>	淳 <sup>じゆん</sup> 也 <sup>や</sup>	富 <sup>ふ</sup> 中 <sup>ちゆう</sup>	久 <sup>きう</sup> 史 <sup>し</sup>	濱 <sup>はま</sup> 三 <sup>さん</sup>	口 <sup>くち</sup> 尾 <sup>び</sup>	智 <sup>ち</sup> 典 <sup>てん</sup>
	森	田 <sup>でん</sup>	哲 <sup>てつ</sup>	吉 <sup>きち</sup>	秀 <sup>しゅう</sup> 幸 <sup>きやう</sup>	吉 <sup>きち</sup>	住 <sup>すま</sup>	圭 <sup>けい</sup>

渡邊 澄夫      渡邊 <sup>よし</sup>喜 <sup>はる</sup>治      西之原 一 美      (63名)

天文学科

鈴木 左絵子      片岡 道子      酒井 規夫      間世田 浩  
森本 智子      森川 雅博      (6名)

地球物理学科

遠藤 喜昭      水谷 真智子      阿部 豊      岩城 陽子  
<sup>かく</sup>角 <sup>だ</sup>田 衛      <sup>かみ</sup>上 <sup>が</sup>垣 <sup>い</sup>内 修      佐々木 晶      関田 康雄  
高 藪 <sup>いづる</sup>出      土肥 啓介      中村 正人      永田 知里  
西本 司      濱谷 雅信      保坂 直紀      真鍋 輝子  
宮田 明      望月 英二      安田 一郎      河野 進  
(20名)

化学科

小椿 賢治      青木 雅弘      伊藤 <sup>さとし</sup>賢      伊藤 治彦  
伊藤 ますみ      石井 隆文      石井 仁      石塚 忠男  
今枝 美能留      宇梶 裕      江川 徹      小澤 理  
大島 正裕      大山 博之      鴻巣 俊之      坂田 将  
大塩 田直毅      柴山 勝弘      白井 精一郎      新長 えり子  
鈴木 孝臣      高津 章子      高橋 和也      高橋 ひろみ  
高柳 正夫      豊田 和弘      中村 貴義      橋本 幸彦  
畑 政久 <sup>じ</sup>二      林 広樹      藤井 卓司      藤原 昌夫  
松本 有俊      松本 敏 <sup>の</sup>之 <sup>し</sup>司      松本 祐三      宮崎 栄治彦  
宮嶋 俊平      森田 恭 <sup>の</sup>之 <sup>し</sup>司      矢ヶ崎 篤 <sup>か</sup>一      山下 正彦  
山田 徹      山田 康洋      米田 成 <sup>しげ</sup>成 <sup>か</sup>一      (43名)

生物化学科

吾妻 光彦      飯野 雄一      石舘 周三      大鹿 育緒  
太田 安隆      川上 浩一      木山 亮 <sup>すずむ</sup>一      儀我 祐子  
北島 健      北本 年弘      小谷 享      小西 のぼる  
近藤 滋      斎藤 一樹      田中 良晴 <sup>まさる</sup>      鳥山 優  
中井 俊樹      中西 伸樹      原田 博丞      保川 清  
渡邊 達夫      渡邊 利雄      (22名)

生物学科 (動物学課程)

加藤 誠      金森 章      木村 言彦      小林 哲 <sup>とし</sup>  
末松 直也      武田 洋幸      弥益 恭      渡邊 信元

(8名)

生物学科 (植物学課程)

大 矢 禎 一	鬼 塚 信 彦	神 田 穰 太	坂 口 修 一
根 本 泰 行	村 上 哲 明	由 良 浩	上 田 太 郎

(8名)

生物学科 (人類学課程)

谷田沢 明 子 (1名)

地学科 (地質学・鉱物学課程)

阿 部 暁 洋	安 部 良 夫	大 藤 茂	菊 池 忠 雄
塩 澤 拓 也	杉 山 和 正	傳 法 谷 宣 洋	堀 口 敏 之
松 濤 聡	森 谷 利 春	山 澤 茂 行	若 宮 俊 司

(12名)

地学科 (地理学課程)

高 村 茂 之	箕 輪 真 理	荒 木 奈 美 子	安 東 尚 美
小 川 琢 之	茅 根 創	國 澤 直 樹	熊 澤 啓 三
向 井 修 一			

(9名)  
(合計 246名)

昭和57年 3月29日大学院修士課程修了者氏名

数 学

大 橋 浩	青 木 昇	植 野 義 明	川 岸 太 郎
久 我 健 一	斎 藤 秀 司	佐 藤 忍	鈴 木 康 正
田 村 要 造	筒 井 亨	丹 羽 芳 樹	三 松 佳 彦
宮 崎 哲 朗	村 上 順	山 口 浩	吉 荒 聡

(16名)

情 報 科 学

安次富 伸 浩	飯 沢 篤 志	石 垣 一 司	神 谷 慎 吾
黒 瀬 博 靖	清 水 謙 多 郎	萩 谷 昌 己	藤 田 哲 之

(8名)

物 理 学

西 本 昭 三	浅 井 朗	天 野 主 税	井 倉 康 雄
石 田 勝 彦	居 田 克 己	伊 藤 正 行	大 木 康 之

大嶋 一 義  
梶田 昌 海  
黒田 和 明  
斎藤 信 雄  
佐野 与志雄  
瀧本 淳 一  
田ノ上 修 二  
富岡 明 宏  
野津山 泰 幸  
両角 祐 一  
湯本 誠 司

太田 滋 生  
片山 伸 彦  
桑田 真  
斎藤 理一郎  
篠原 真人  
武末 真 二  
全 卓 樹  
鳥越 健 二  
服部 哲 弥  
山下 一 郎  
由良 信 介

岡田 安 弘  
河合 誠 之  
向後 久美子  
坂本 浩 一  
高橋 邦 明  
田中 富 士  
陳 榮 浩  
長沼 和 則  
古野 毅  
山田 琢 磨  
吉永 尚 孝

笠野 章  
藏堀 夏 夫  
小森 弘 幸  
佐々木 茂 樹  
高橋 文 夫  
高谷 森 達  
峠 暢 一  
新田 哲 郎  
真下 哲 郎  
山中 卓

(51名)

天 文 学

秋田 亨  
金光 理

植田 龍 男  
松坂 茂

浦田 健 二

大石 雅 寿

(6名)

地球物理学

石田 十 郎  
楠 昌 司  
日比谷 紀 之  
山野 誠

卜部 卓  
進藤 武 彦  
平岡 規 之  
蓬田 清

遠藤 猛  
竹田 宏  
増田 耕 一  
渡部 行 男

小河 正 基  
西 祐 司  
山田 真 吾

(15名)

化 学

赤木 右 己  
石橋 正 存  
小淵 和 美  
岸部 良 明  
斎藤 博 明  
田尾 宣 博  
時任 哲 也  
長谷川 哲 也  
村井 良 行  
横畑 彰 人

秋山 隆 彦  
卜部 明 子  
片木 敏 行  
北村 守 二  
未村 耕 子  
高井 治 一  
戸潤 卓 司  
広瀬 健 彦  
森 ロドニー・ブンス

荒牧 晋 司  
大林 康 男  
加藤 修 司  
倉田 洋 平  
瀬戸 孝 俊  
高濱 裕 宣  
中村 敏 夫  
圓井 省 吾  
大和 宏 康  
若木 政 利

池川 昭 彦  
尾沢 潤 一  
菊地 耕 一  
斎藤 昭 男  
宗林 孝 明  
田中 能 之  
長瀬 敏 雄  
三輪 哲 生  
山本 智

(39名)

生物化学

浅田 誠  
古濱 孝 文  
細谷 浩 史

井上 直 樹  
泰地 睦 夫  
菅野 純 子

神坂 泰  
中山 直 樹  
南 康 文

川口 謙  
浜 千 尋  
宮尾 光 恵

森島信裕 山本百合子 吉田英哉 (15名)

動物学

金子律子 志賀隆 島田義也 村上柳太郎  
山口正晃 吉川拓支良 (6名)

植物学

網野真一 大石圭子 小関良宏 久保多恵子  
許斐康嗣 谷本弘一 寺島一郎 本間道夫  
(8名)

人類学

足立和隆 石田貴文 金子隆一 西垣敏紀  
(4名)

地質学

林慶一 安藤寿男 金川久一 小屋口剛博  
高田亮 早川由紀夫 藤本光一郎 細山田浩一  
守屋成博 (9名)

鉱物学

高畑努 平野昌弘 山田清司 (3名)

地理学

木村琢郎 杉谷隆 平井幸弘 松原彰子  
松本淳 吉成直樹 (6名)

相關理化学

宮川正己 泉谷益弘 久賀伸美 酒井修  
青木メイ子 茂垣真人 五十嵐功 小川雅道  
筧義郎 金井保之 金森英人 川手悦男  
源馬徹 桜井力 鈴木秀明 鈴木真理子  
高橋裕一郎 玉虫秀一 堤誉志雄 難波勝  
馬場浩司 兵道義彦 藤谷秀章 藤田正幸  
道下明生 三戸章裕 武藤秀樹 吉田修治  
若林文高 (29名)

科学史・科学基礎論

大野誠 小松真理子 中村実 橋昭一



中島秀人

野矢茂樹

橋本毅彦

(7名)

(合計222名)

## 理学博士の学位授与者

[昭和56年12月7日付(8名)]

専門課程	氏名	論文題目
物 理 学	那須田 明 生	ヘモグロビンの酸素化の微細構造の精密測定
生 物 化 学	横 山 茂 之	核磁気共鳴による核酸の動的構造と機能の解析
同	持 立 克 身	コリシンE <sub>3</sub> の免疫蛋白質(B蛋白)の構造と機能に関する研究
植 物 学	箸 本 春 樹	ユーグレナグラシリスの葉緑体分裂の研究
学位規則第3条 第3項該当	吉 崎 正 憲	二層チャンネル流の中の有限振幅傾圧波の安定性
同	遠 藤 泰 樹	フリーラジカルのマイクロ波分光
同	黒 川 隆 志	高分子光導波路の研究
同	高 木 康 成	ラマン散乱による強誘電体 特に二水素リン酸カリの構造相転移の研究 -ラマンスペクトルの線形の解析

[昭和57年1月18日付(7名)]

数 学	稲 葉 尚 志	コンパクトでない葉に対するレーブ安定性
物 理 学	新 川 孝 男	稀な崩壊モード $K^+ \rightarrow \pi^+ \nu \bar{\nu}$ と $K^+ \rightarrow \pi^+ a^0$ の検出
地 球 物 理 学	川 辺 正 樹	対馬海流の分枝現象
同	里 村 雄 彦	浅水のシア-不安定に関する研究
学位規則第3条 第3項該当	伊 藤 達 郎	次数3を持つ距離正則な2部グラフ
同	駒 宮 幸 男	PETRAエネルギー領域に於ける電子・陽電子対消滅によるハドロン生成の研究
同	富 満 廣	中性子回折トポグラフィによる結晶内部構造の直接観察

[昭和57年2月8日付(4名)]

学位規則第3条 第3項該当	楠 岡 成 雄	バナッハ空間上のガウス測度の非線型変換と絶対連続性の研究
同	岡 本 保	ラット再生肝におけるタンパク質グリコシル化の調節に関する研究

専門課程	氏名	論文題目
学位規則第3条 第3項該当	佐藤朝男	PETRAのエネルギー領域における新粒子の探索
同	荒川恒男	ジゲル保型形成に対応するディリクレ級
〔昭和57年3月15日付(19名)〕		
物理学	松川尚弘	KBr: NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> の共鳴ラマンと回転準位の研究
人類学	河内真紀子	生体計測値における日本人の地域差とその解釈
学位規則第3条 第3項該当	本座栄一	日本海溝における沈み込み帯と海溝付加帯に関する研究
同	林秀則	Chromatium vinosumおよびRhodospseudomonas palustrisより得られる光捕集バクテリオクロロフィルを含む色素タンパク質複合体
同	登内正治	中南部本州産オフィオライト岩体および関連岩石の古地磁気学と地下構造生成過程の研究
同	辻浦賢	群発地震と前震の波形及びスペクトル特性 -地震予知に関連して-
同	濱英彦	日本人口構造の地域分析 -その変動過程・転換局面・将来展望について-
同	村田明広	西南日本、三波川-秩父・黒瀬川・三宝山帯のテッケ構造とその形成過程
同	於保幸正	南部北上山地における白亜紀初期の変形運動 -岩石の変形組織の解析から-
同	小林弘之	Skyrme相互作用と、 <sup>12</sup> Cによる弾性核子散乱
同	竹尾富貴子	単体空間上の正作用素のスペクトルについて
同	筱田健一	有限体上の線型代数群の表現の研究
同	岡本美恵子	TMT腫瘍系を用いたマウス腹水腫瘍の放射線感受性に関する研究
同	西村年晴	四国西部の上部白亜系和泉層群の堆積盆解析
同	水上正勝	海水および海水-地表水混合液と中新世火山性岩の化学反応実験的研究とその応用
同	有松靖温	マウス扁桃体におけるα-ブンガロトキシン結合部位の性分化に関する研究
同	小沢真	静電容量とラプラシアン固有値
同	浅田健嗣	1 R <sup>n</sup> における非斉次フーリエ積分作用素のL <sup>2</sup> 有界性定理について
同	菊地昌子	Straub F-アクチン溶液の遠心沈降下の挙動 -F-アクチン結合因子の存在-

[昭和57年3月29日付(94名)]

数	専門課程	氏名	論文題目
	学	大阿久 俊 則	非包摂的特性を持つある擬微分方程式系の研究
	同	村 瀬 篤	GQの $G_A$ における分布の一様性について
物	理 学	麻 生 素 子	非線型緩和過程の理論 - スピン緩和 -
	同	阿 部 修 治	アモルファス半導体における光吸収および格子緩和の理論的研究
	同	植 村 泰 朋	ミュオンスピン緩和法によるスピングラスの動的性質の研究
	同	大 崎 明 彦	一様な磁場中での電子・原子衝突の研究
	同	太 田 信 義	Large-N Limitにおける $\eta$ メソンの問題と真空の構造
	同	大 野 隆 央	高ステージ・グラファイト層間化合物の電子物性
	同	小 川 雄二郎	重力の逆二乗法則の実験的検証
	同	小 野 清 志	リスト処理言語における自由領域の管理の改良について
	同	加 藤 弘 一	マグネタイトの強誘電性強磁性
	同	川 村 光	量子系の固相-液相転移-格子模型による研究
	同	菊 谷 英 司	$K^+$ 中間子のまれな崩壊形式、 $K^+ \rightarrow \pi^+ \gamma \gamma$ の研究
	同	楠 本 淑 郎	二重拡散不安定性による層構造形式
	同	久 世 宏 明	蟻酸分子の $\nu_3$ 振動回転バンドの高分解能レーザー分光
	同	栗 原 亨	$^{208}\text{Pb}(\alpha, ^6\text{He})^{206}\text{Pb}$ 反応の研究並びにそれに関連する中性子拾い上げ反応の系統的研究
	同	河 野 公 俊	ヘリウム液面電子の逸出
	同	坂 元 真 一	入射運動量 374-680 MeV/Cでの反陽子・陽子弾性散乱及び荷電粒子への消滅反応の研究
	同	清 水 史 也	入射運動量 0.9-2.0 GeV/C領域での陽子-陽子散乱の研究
	同	杉 谷 道 朗	$^{24}\text{Mg}(\bar{P}, P')$ 反応による励起モードの研究
	同	鈴 木 弘 成	カルコゲナイドガラスの光検出ESR
	同	陶 山 明	核酸熱変性のキネティクス
	同	高 木 滋	遍歴電子型 Curie-Weiss 常磁性体におけるスピンのゆらぎのNMRによる研究
	同	高 野 宏	実空間緑り込み群の方法を用いた臨界現象の研究
	同	谷 野 浩 史	擬一次元混合原子価結晶 Wolfram's red Salt の光励起と緩和
	同	近 間 輝 美	光学過程におけるゆらぎの効果の確率論的研究

専門課程	氏名	論文題目
物理学	手嶋久三	散乱振幅の漸近的振舞いに対するくりこみ群によるアプローチ
同	遠山満	ホールアナログ状態の同位体依存性
同	中野隆	電子-格子系のソリトンに対する電子相関の効果
同	西森秀稔	競合する相互作用を持つランダムなスピン系についての厳密な結果
同	野崎光昭	ペトラエネルギーに於けるタウ粒子生成
同	野田悦夫	レーザー生成非等方プラズマの複合磁場による粒子流出抑制に関する研究
同	林秀光	超イオン伝導体における相転移の理論
同	広海健	ショウジョウバエ突然変異筋蛋白の二次元電気泳動法による解析
同	平野雅夫	パルス高磁場下の $Al_2O_3:Cr^{3+}$ のスピン格子緩和過程
同	舛谷敬一	パイオンの光学ポテンシャルとその反応過程への応用
同	松野茂信	宇宙線ミュオン粒子の15 TeV/Cまでの運動量分布とその荷電比
同	箕輪達哉	高感度時間分解マイクロ波分光装置の開発
同	梁井健一	層間化合物 $LixCoO_2$ ( $0 < X \leq 1$ ) の研究
同	柳原美廣	イオン結晶の高エネルギー励起状態の緩和過程
地球物理学	杓掛洋志	炭酸カルシウムの溶解速度に関する実験的研究及びその遠洋性堆積物形成過程への応用
同	綱川秀夫	新第三紀岩脈群及び小笠原諸島火山岩の K-Ar 年代にもとづく日本の古応力場
同	町田忍	プラズマ・ポーズ近傍の多点観測によって得られた VLF 波動の伝播特性
同	三浦秀夫	密度成層と海底地形が西岸強化流の変動に及ぼす影響
同	横田崇	地震波信号の時系列解析と自動検出処理への適用
同	吉川澄夫	岩石の Acoustic Emission の応力履歴特性を利用した地殻応力推定法の開発
同	吉田次郎	2次元 Plume の相互作用とそれに伴う乱れの場の研究
化学	市田光	Keggin 型及び類縁ヘテロポリモリブデン酸の構造
同	伊藤真人	5-アミノ-1-ビニル-4-, 5-ジヒドロ-1H-1, 2, 3-トリアゾール類の合成と反応
同	岩田泰夫	系統的抽出法による底質及び土壌のキャラクタリゼーション
同	内丸忠文	ピロリジジナルカロイド、インテゲリミンの合成ならびに新しいカルボキシル基の保護基の開発研究

専門課程	氏名	論文題目
化学	尾崎 裕	希ガス準安定励起種を用いた解離励起反応の機構および光学的禁制な電子励起状態の分光学的研究
同	岡本 猛雄	アクセプター型グラファイト・インターカレーション化合物、酸化亜鉛及び二酸化ニオブの圧力誘起相転移の研究
同	黒田 智明	Germacranolide 誘導体の合成およびヤブレガサのセスキテルペン構造
同	小林 憲正	亜鉛含有金属酵素の分析化学的並びに生物地球化学的研究
同	小堀 良浩	金属触媒上における一酸化炭素の水素化反応の研究
同	佐藤 佳晴	実験室系 EXAFS 測定装置とその担持触媒への反応
同	堂 免一成	半導体粉末触媒上における光触媒反応 - 水の光分解 -
同	永田 敬	光および電子衝撃による分子の解離励起過程の研究
同	西原 寛	窒素錯体とヒドリドカルボニル錯体の反応の研究
同	西原 祥子	Mn(II)イオンをプローブとした磁気共鳴法による免疫グロブリンの構造と研究
同	野村 昌治	実験室用 EXAFS システムの開発とその応用
同	薬袋 佳孝	海洋底基盤岩および堆積物の地球化学的研究
同	山口 雅彦	有機カドミウム、ホウ素、スズ化合物を用いる立体選択的炭素-炭素結合生成反応の開拓研究
同	山本 陽介	ハイパーバレント硫黄原子上における結合交換
生物化学	芦川 育夫	ケイ光分光法によるクロマチンの構造の研究
同	遠藤 斗志也	プロトン核磁気共鳴による蛇毒神経毒タンパクの分子構造の研究
同	桑原 朋彦	ホウレンソウ葉緑体の33-キロダルトン蛋白質の精製、性質および機能
同	斎藤 義雄	球状蛋白質の変性過程の精密解析 - 多次元同時分光法と高速ゲル3過クロマトグラフィ法
同	酒井 一夫	哺乳動物培養細胞における放射線感受性とDNA傷害との関係に関する研究
同	櫻井 通陽	核酸塩基の分子内および分子間スタッキング会合平衡の研究 - 構成糖ならびに構成塩基のちがいの効果
同	西尾 隆	沿岸域及び汽水域の堆積物中における窒素化合物の循環 - 硝酸還元、脱窒及び硝化を中心として -
同	久永 真市	細胞質ダイニンの精製と酵素的性質
同	福田 恵	タバコモザイクウイルス形態形成反応の解析
同	八木澤 仁	モルモット、リニホトキシン (GLT) の細胞障害機構の解析
同	安岡 希見子	筋小胞体 $Ca^{2+}$ 輸送 ATPase の研究: 反応中間状態における構造変化

専門課程	氏名	論文題目
生物化学	安田年博	リボヌクレアーゼ $T_2$ およびリボヌクレアーゼ $U_2$ 触媒反応機構の研究—合成基質、天然基質を用いた定常状態速度論に基づく解析
動物学	石井直方	軟体動物平滑筋から単離した単一筋細胞の力学的性質とその構造的基礎
同	酒泉満	メダカ属の種分化に関する遺伝生化学的研究
同	白山義久	深海堆積物断面内におけるメイオセントスの生態
同	沼澤篤	マウス排卵時におけるゴナドトロピンに対する卵巣の応答に関する内分泌学的・細胞学的研究、特にCumulus Expansionの機構
同	山上圭司	$Ca^{2+}$ 及びカルモデュリンの関与する肝細胞膜の機能とその癌性変化に関する研究
植物学	福田裕穂	ヒヤクニチソウ葉肉細胞培養系における木部細胞分化の機構
人類学	鈴木隆雄	江戸時代人頭蓋における骨梅毒症の古病理学的・古疫学的研究
地質学	阿部勝巳	介形虫 <i>Keijella bisanensis</i> の個体群構造—個体群構造がどこまで化石記録中に保存されるかの研究
同	内田悦生	釜石鉱山におけるスカルン化作用およびイオン交換平衡に関する実験的研究
同	土山明	透輝石—灰長石系における結晶作用のカイネティックスの実験的研究とその天然マグマへの応用
鉱物学	森寛志	エコンドライト輝石の微細組織とその成因
相関理化学	上田英二	マメ科植物根粒発達過程におけるレグヘモグロビン成分の挙動とその生理学的機能
同	宇田哲朗	2次元球面 $S^2$ に値をとるEells-Sampson方程式の大域解について
同	奥通敬	弱いスピン異方性をもつ反強磁性体の場のくり込み理論
同	矢島裕介	ゼロ磁場ODMR分光法による有機分子の三重項状態の動的性質に関する研究
同	山本和久	不均一系における $1/n$ 展開
同	渡辺肇	レーザー分光による振動励起分子の化学反応素過程の研究



毎月 1 日は

「省エネルギー」

の日です。

---

編集：

飯 高 茂 (数学)	内線	4 0 5 3
矢 崎 紘 一 (物理)		4 1 2 3
松 野 太 郎 (地物)		4 2 9 9
露 木 孝 彦 (化学)		4 3 5 7
尾 本 恵 市 (人類)		4 4 8 2

---